

アンモニアバンカリングガイドラインの策定に向けた検討について

概要

- アンモニアは燃焼時にCO₂を排出しないため、海運のカーボンニュートラル実現に向けた代替燃料の一つとして期待されている
- グリーンイノベーション（GI）基金によるアンモニア燃料船および関連機器の研究開発が進められるとともに、国際海事機関（IMO）において、アンモニア燃料船の安全基準の検討が進んでいる※
- アンモニア燃料船の普及に向けて必要となる、船舶へのアンモニア燃料の補給の安全かつ円滑な実施については、各国に委ねられている
- 「アンモニア燃料船への安全かつ円滑なバンカリングの実施に向けた検討委員会」を立ち上げ、設備の要件、離接舷時の気象・海象要件、事故防止対策等を検討し、令和6年度にガイドラインとしてとりまとめる予定

※GI基金は2028年までの早期の商業運航を目標。IMOでは2024年内にガイドライン承認を予定

※国際的な基準・標準化等の課題が出た場合は対応していく

アンモニアバンカリング
ガイドラインの検討委員会

<委員>

高崎 講二 九州大学名誉教授
海上保安大学校
日本海事協会
日本船舶技術研究協会
海上技術安全研究所
日本船主協会
日本造船工業会
日本中小型造船工業会
日本船用工業会
日本内航海運組合総連合会
日本海難防止協会
海上災害防止センター

<関係省庁>

経済産業省産業保安グループ
国土交通省海事局
国土交通省港湾局
海上保安庁警備救難部
海上保安庁交通部

主な検討項目

- 緊急遮断システムなどのアンモニア燃料船およびアンモニアバンカー船に求める設備要件
- 安全な離接舷操船を行うための気象・海象要件
- アンモニアによる事故を防止するための対策

想定される設備要件の例



緊急遮断システム



離接舷操船の要件の検討例



気象・海象に応じたシミュレーションイメージ